



TITLE:

質疑欄

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑欄. 天界 1920, 1(3): 46-46

ISSUE DATE:

1920-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159533>

RIGHT:

質疑欄

(六)素人が手軽に自分の住所の方角を知る方法無きや(M生)

【答】夜、北極星を眺めて北の方角を知るか。

【答】夜、北極星を眺めて北の方角を知るか。真太陽時の正午に太陽は南にありますから、家の窓の影の方向等から南の方角は分ります。時計も使はずにこの御望ならば、午前及び午後まで、水平な地面に立てた棒の影の長さが等しい時に影をしろしつけて、其一對の影の方向を二等分した方向がまづ南になることを利用してもよいでせう。棒に代へるに南面の窓に小孔をあけてもよいでせう。此理屈から家の向きと南北との關係は容易に知るこゝが出来ます。三角函數表を使つてもよいのならば、外にいくらも方法があります。(K)

(七)英文の名高き天文學者の傳記 T A)

【答】一人一人の天文學者の傳記は澤山ありますが我國の書店には餘りありません。それよりも一番なのは

R. S. Ball, Great Astronomers (1906)

I. Pittman & Sons, London :

I Amen Corner, E. C.

です。之れはトレミー、コペルニクス、テヒヨ、ガリレオ、ケプレル、ニュートン、フラムステッド、ハレイ、ブラッドレイ、ハーシェル父子、ラプラス、プリングリー、ロス侯、エアリー、ハミルトン、ルベリエー、アダムスの十八人の小傳が記載してあります。先づ昔からの代表的天文學者を選んだもので、記事も頗る興味深く且要領を得てゐます。全頁三七〇頁。價は貳圓内外、丸善にあります。(Y)

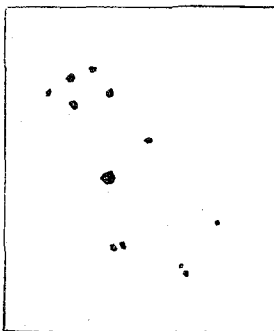
(八)太陽に對して太陰と言はず、月に對して日と言はざるは何故か(X Y Z)

【答】別に意味はありません。言つたつて差支ないのですが、要するに便不便の習慣ですれ。強いて言へば月で充分で敢て仰々しく太陰など言ふ必要なく、又、日だけでは音が餘り簡單であつた重大なる天體を表すとしては幾分不満足に感ぜられるからでせう。(Y)

● する星群中の星數

前號津田氏の記事にもある通り、此頃日没後東天に高くする星群が見える。此の群中には三等星のアルシオンを首として無数の星が密集してゐる。眼の好くない人には全體が只ボンヤリと見えるが、眼の好い人には若干の星が數へられる。普通の眼ならば六つぐらゐ見える。こゝに會員中村要君の肉眼觀測による此の星群のスケッチを紹介する。これで見ると十二個の星が同氏には見えるのだ。好い眼と言はなくてはならぬ。(Y)

宿るばす



(中村要氏 畫)